

北部普及だより

LED 電球を利用したいちごの電照栽培について ～高槻市寺田義弘氏の取組～

高槻市でいちごの促成栽培を行っている寺田義弘氏はこれまでの小型ビニールハウス 7 棟を大型連棟ハウスに建て替えたことを契機に、細霧冷房や CO₂ 施用装置を装備し、栽培の高度化を図っておられます。

施設の電照は現在、白熱灯を使用されていますが、LED 電球は①植物が必要としている波長の光だけを当てることができるため最も有効な光源であり、②白熱灯に比べて消費電力を抑えながらも効率的な栽培ができるため、平成 28 年に一部試験的に導入されました。

府内でのいちご栽培では、LED 電球の導入事例が非常に少なく、効果的な LED 電球の設置間隔などがわからなかったため、農の普及課では LED 電球をすでに利用している先進情報の収集やほ場の照度測定、生育への影響の調査などの支援をしました。

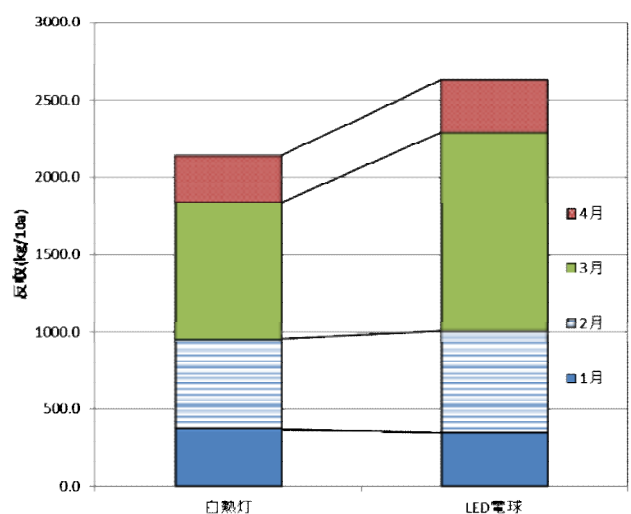
その結果、慣行の電球設置間隔では、LED 電球は白熱灯と同等以上に、いちごの生育に十分な照度があること、また収量については、LED 電球の方が 19% 多い（下図）ことがわかりました。

今回の結果から寺田氏は「LED 電球を使用することで生育が良く、果実品質も良くなった」等好感触を得て、全面的に LED 電球に切り替えることを検討されています。

当課では引き続き、収量調査を行い、LED 電球の効果把握するとともに、LED 電球の設置数を減らし、長時間照射する際のコスト計算を行うことで、LED 電球による電照栽培技術の確立を図ります。



▲ LED 電球（左）、白熱灯（右）設置状況



▲ 白熱灯と LED 電球の収量比較
(平成 29 年 4 月末現在)

生産技術**農薬の使用は基本に忠実に！**

病害虫の発生の多い季節です。農薬散布時は下記の注意事項を参考にしてください。

- 1 農薬散布を行う前に、使用する農薬のラベルをよく読んで登録内容を確認しましょう。
- 2 マスク、手袋、防除着を必ず着用しましょう。特にハウス内では換気にも注意！
- 3 農薬散布は、風のない時に行いましょう。
大阪での夏の晴天の日は、朝凧（あさなぎ）と夕凧（ゆうなぎ）の時間帯に一時、風が止まります。
- 4 散布の3つの基本事項を守りましょう！
①作物に噴口を近づける。②散布機の圧力を上げすぎない。③散布量は多くなりすぎない。
- 5 飛散の少ないノズルを利用しましょう。
- 6 飛散防止には、暴風ネットの利用やシートで遮断することも有効です。
- 7 粒剤など、飛散しにくい農薬を選びましょう。
- 8 周囲の農作物にも登録のある農薬を選択して使いましょう。
- 9 タンクやホースは念入りに洗いましょう。くれぐれも洗い残しのないように！
- 10 農薬散布後は、必ず散布履歴の記帳を行いましょう。



近年、食品衛生法に基づく農薬残留基準が厳しくなっています。農薬散布は、これまで以上に注意をしてください。

がんばる農家女性**能勢の野菜の魅力を伝えたい『川上かつ子さん』**

能勢町にある直売所「道の駅 能勢（くりの郷）」に野菜を出荷されている川上かつ子さんを紹介します。川上さんは、約20aの畑で生産から出荷まで全てを担っておられます。「植物には植物の肥料を」と、粃がらや米ぬかなどを中心に土づくりに力を入れて栽培されています。

また、能勢町農産物直販協議会の理事や監事を務めてこられ、直売所のイベントでは「わさび菜は天ぷらがおいしい」などお客さんとの交流を大切に、能勢の野菜の魅力を伝えることを心がけておられます。今後も川上さんの一層のご活躍を期待しています。

- 道の駅「能勢（くりの郷）」
- 営業日時：9時～18時（4月～10月）
9時～17時（11月～3月）
- 定休日：火曜日 ただし7月～10月は無休
- 電話：072-731-2626
- 駐車場・併設施設（レストラン）：有り



▲川上さん

お知らせ**表彰おめでとうございます**

- 大阪府憲法施行記念式 産業功労者（農業）知事表彰 丹村民夫 さん（池田市）
- 平成28年度農業電化推進コンクール 優秀賞 山口正勝 さん（茨木市）
- 第5回大阪府食の安全安心顕彰制度 大阪府知事賞 有限会社能勢物産センター さん（能勢町）